

1 子どもに確かな学力と学習意欲の向上を図ろう。—教えて学ぶ授業づくり—

(1) 授業改善及び分析を通して、生徒に確かな学力を付ける

① 今年度は、生徒の実態分析を踏まえ、授業改善及び学力の向上に向けた具体的な取組を進めてきた。全教職員による「各教科の分析と今後の取組」をまとめ、3学期に焦点化して取組を行った。

引き続き、「教えて学ぶ」授業づくりを進めていく。

② また、個人だけではなく「学年」「教科」における取組を進める。

③ 繰り返し学習、家庭学習の充実を図る。

(2) 生徒の実感を伴う取組にチャレンジする

① これまで通りではなく、各自で考えた内容や生徒が考えた内容をどうやったら実戦できるのかその過程を大切に取組を進める。

② 体験活動の充実を図る。(福山探索・鞆の浦探索・職場体験・修学旅行等)

(3) 『凡事徹底』の理念の継承—「あいさつ」の徹底

「時を守り、場を清め、礼に正す」この3つのことを習慣にすることで、自分の内面が鍛えられ、そのしなやかさ強さ美しさが、相手の心を動かすようになる。というものである。

① 「凡事徹底」することの意味と良さを時を捉えて生徒に語っていく

② 本校の生徒は挨拶ができない。しないのではなく、されたら快く返すことができるのである。

自信のなさなのか、大人の姿の反映なのか。素直な子どもたちだからこそ、挨拶を徹底させ、挨拶から互いにコミュニケーションをつくりだすことができるよう取り組んでいく。

2 きらりルームの取組を広げよう。 —すべての生徒をすべての教職員で見よう—

(1) 不登校生徒ゼロ

本校は「きらりルーム設置校」としての指定を受け、ほっとルーム担任が中心となり、前年度末から今年度初めにかけて、不登校生徒等のアセスメントを行い、生徒が安心して学べる学校づくりを目指してきた。(本校の呼称は『ほっとルーム』)

教職員は、休みの多い生徒についての作戦会議を定期的に行ったり、空き時間にほっとルームの生徒に声をかけたりしている。チームとして「生徒を大切にする風土」が作られているととらえている。

しかし、2月末の現状は、長欠者35名(前年度比-14)、であり、減少したものの当初の目標である、半減に至っていないのが現状である。教職員は細かな連携のもと家庭訪問やチームとして取り

組んでいる。一方、生徒の現状の把握・保護者連携にとどまり、生徒の思いをとらえ分析するに至っていないことも時としてあるのではないかな。また、家庭の持つ教育力にも課題があり、関係機関との連携が必要な場合もある。

きらりルームの取組から、「すべての生徒を見ようとしているのだろうか。」「本当に子どもの思いや願いに寄り添っているのだろうか。」と自分自身に問いたい。担任任せにしていないか。担任は学年任せにしていないか。そして、自分自身はこの取組を通して何が変わり、何が見えてきたのかを我々教職員一人一人が確認しなければならない。

「1日でも、1時間でも学校に来られるように」という全教職員の共通した願いや思いは今も薄れてはいない。そこから、学校運営を行っていくものである。

ア 小学校との連携を丁寧に行う。アセスメントシート、ほっとルーム紹介等

イ 「新規」を出さない。

ウ 現在の人数の半減。

（２）心に寄り添う指導ーこれまでの自分自身のかかわりをゼロベースから見つめるー

本校教職員は、良いこともそうでないことも、保護者連携を大切にしたい取組を継続している。一方で、現象面だけにとらわれる場面も少なくない。学校で表出している一面だけをとらえてはいないだろうか。

私たち教職員がそれぞれの子どもの本音の部分で語り合える関係づくりこそが、必要であり急務である。そのことが安心で安全な学校づくり、いじめのない学校づくりにつながるものである。

ア 現象面ではなく、子どもの考えや思い、おかれている状況を把握し、全職員で共有する。

イ 子どもの痛みを感じ、共感的なかわりを持つ。

ウ 保護者の願いを把握し、具体的な方策を共に考え出す。

エ 生徒・保護者への取り組みは複数で対応する。

ウ 生徒指導規程のアップデート

3 安心・安全な学校づくり

安心・安全な学校づくりについては、授業・領域の中で、行事の中で起こりうることをくまなく確認してきました。学校事故を起こさないという決意のもと次の2点を重点に取組を進めます。

ア 不祥事防止・・・風通しの良い職場づくりをおこなう。研修の充実。

イ 学校事故の防止・・・授業で起こりうる危険性を確認するための研修を継続して行う。

ウ いじめストップ・・・特にいじめストップ集会について生徒会を中心に、学校生活の中、家庭生活の中で起こる課題について、一人一人が主体的に考え行動できる内容を推進する。（ピンクシャツデーの取組）

エ 防災・減災の取組・・・身近な課題の発見をし、自分たちにできることは何か具体的に考え・行動できるものにする。

オ 社会に開かれた教育課程、年間計画の作成